

産業厚生常任委員会資料

平成28年4月12日

市民生活部 生活課

目 次

加東市の一般廃棄物処理の概要について

- | | | |
|---|--------|-----|
| 1 | ごみの排出量 | P 1 |
| 2 | 資源化の状況 | P 4 |

加東市の一般廃棄物処理の概要について

1 ごみの排出量

(1) ごみの総排出量 (図1、図2)

ごみ総排出量は、平成18年度以降は減少傾向となっています。

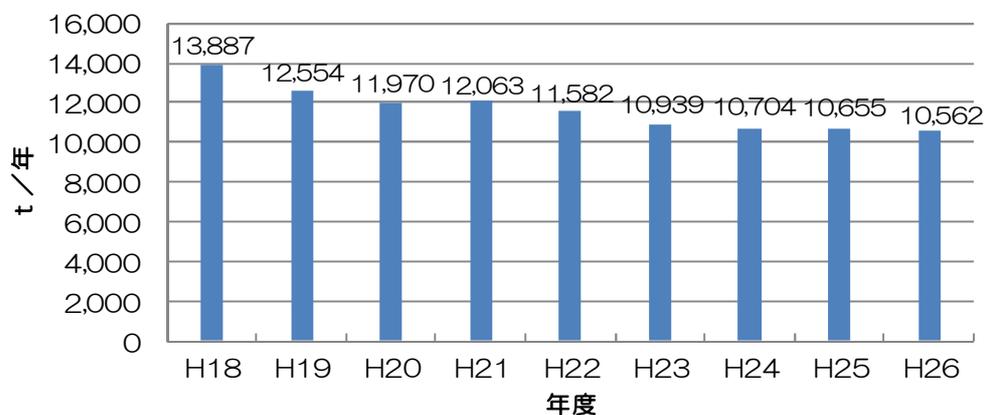


図1 ごみ総排出量の経年変化

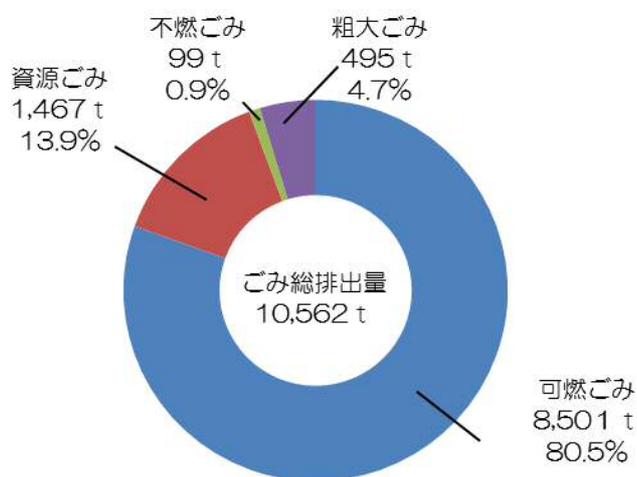


図2 排出したごみの内訳(平成26年度)

(2) 1人1日あたりのごみ排出量の経年変化 (図3)

1人1日あたりのごみ排出量は、年々減少傾向にあり、平成26年度は、727gでした。全国平均の1人1日あたりのごみ排出量と比較しても、少ない排出量となっています。

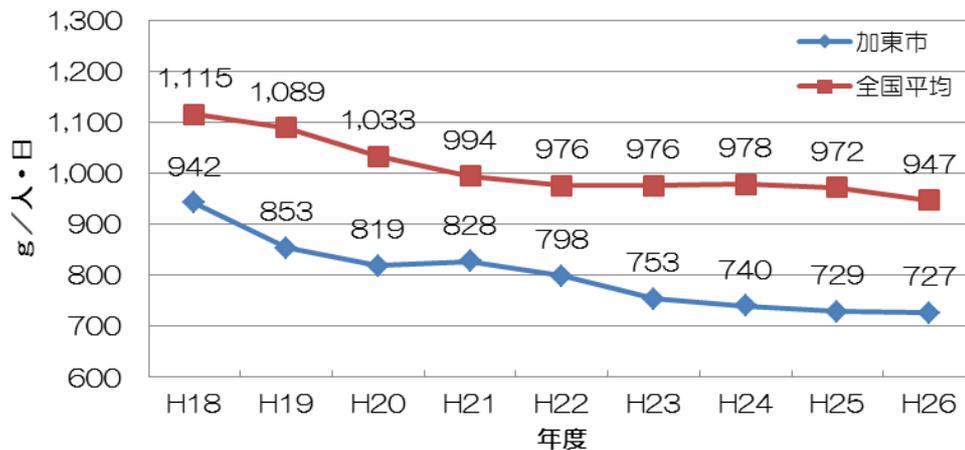


図3 1人1日あたりのごみ排出量の経年変化

(3) 平成26年度県内41市町のごみ総排出量少なさベスト10 (図4)

平成26年度の1人1日あたりのごみ排出の内訳は、家庭ごみが477g、事業所ごみが250gとなっています。家庭ごみの少なさは、兵庫県内では1位となっていますが、事業所ごみは、16位となっています。ごみ総排出量の少なさでは、県下で第5位となっています。

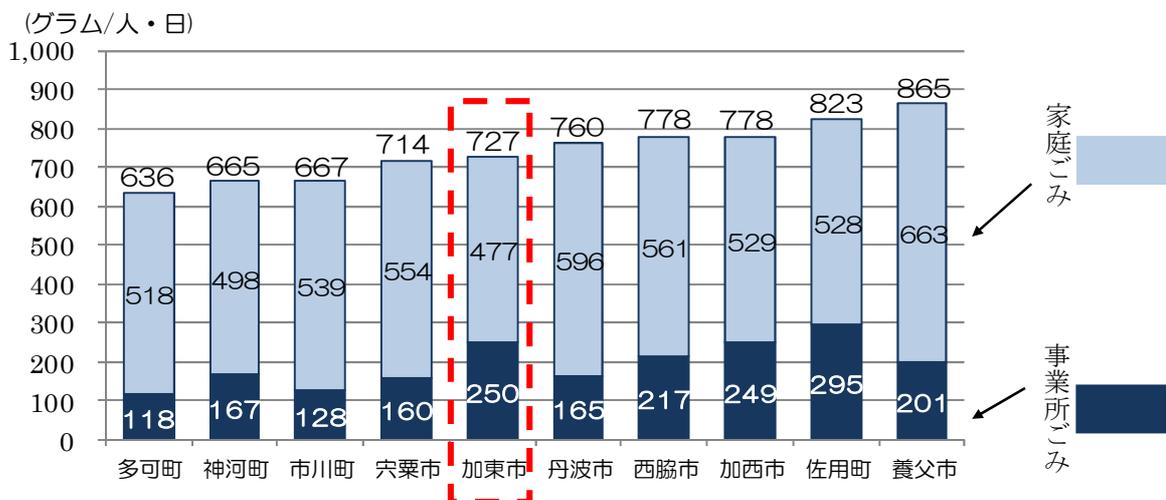


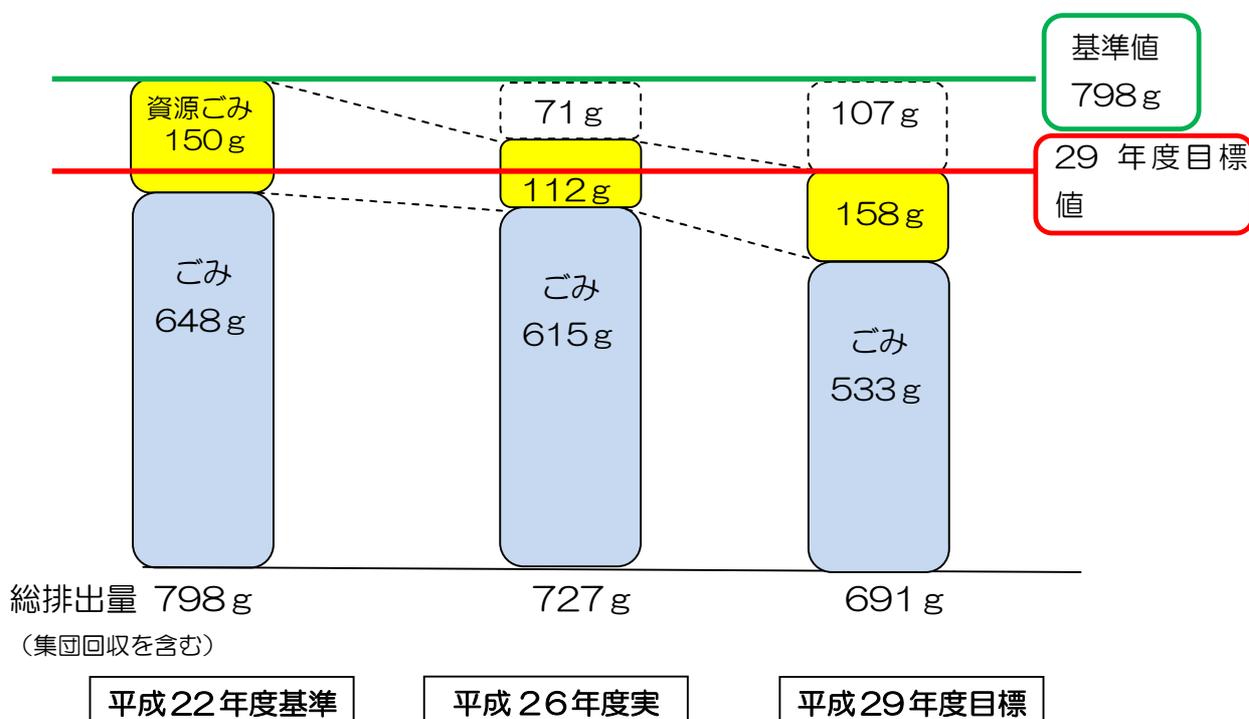
図4 平成26年度県内41市町のごみ総排出量少なさベスト10

(4) ごみ減量の取組

保健衛生推進委員が主体となった地区（自治会）でのごみ減量・リサイクル懇談会や学校等を対象とした出前講座等を実施し、市民のごみに対する理解を深めるための自主的な取組を支援しました。具体的には、生ごみの水切りの徹底やマイバック運動によるリデュースの取組、使い捨ての商品を使わないリユースの取組など、市民のライフスタイルの見直しに有効な情報提供や広報、啓発を行いました。

(5) ごみの減量及び資源化の現状と目標値

平成22年度のごみ総排出量798gを基準とし、平成29年度の目標値691gに向けて減量に取り組んでいます。平成26年度の実績は727gで、目標達成まであと36gの減量が必要になります。



2 資源化の状況

(1) 総資源化量とリサイクル率の経年変化 (図5)

総資源化量及びリサイクル率は、平成20年度までは、増加の傾向を示しましたが、平成21年度以降は、集団回収量の減少に伴って、減少傾向となっています。また、平成26年度のリサイクル率は15.4%で、全国平均の20.6%を下回っています。
 (リサイクル率 = 総資源化量 / ごみ総排出量)

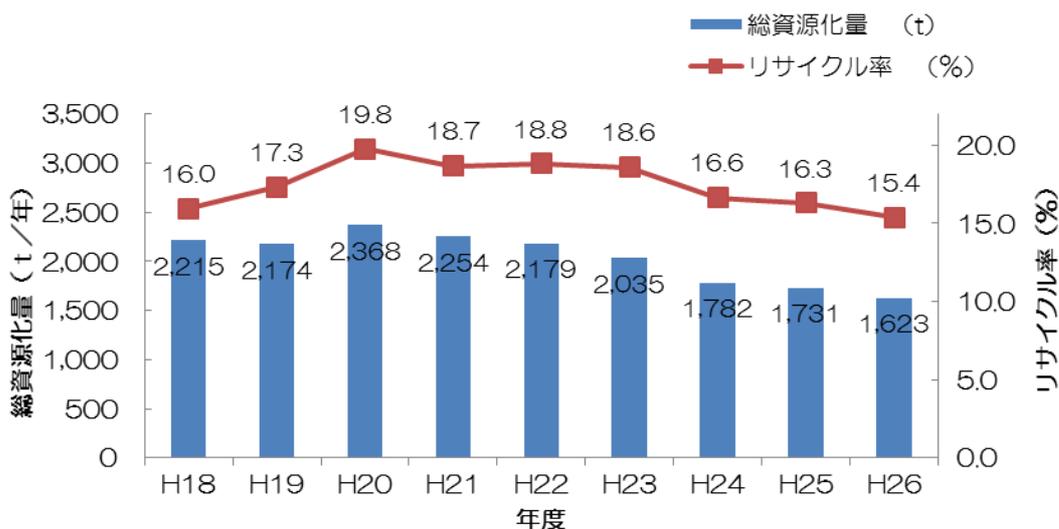


図5 総資源化量とリサイクル率の経年変化

(2) 資源ごみ集団回収量の経年変化 (図6)

集団回収量とは、学校PTAや子供会等の団体が実施している集団回収において回収される、新聞紙などの紙類、空き缶などの金属類、リターナブルビンなどの回収量です。平成26年度の集団回収量は898tで、平成20年度をピークに年々減少傾向にあります。

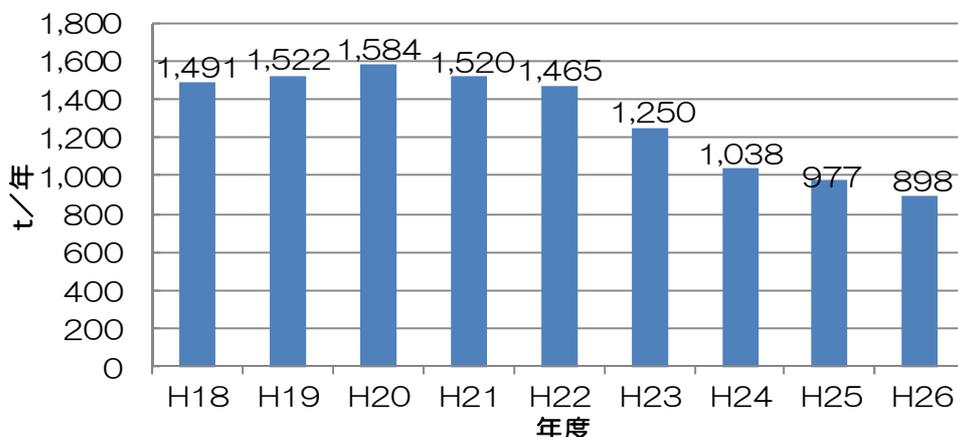


図6 集団回収量の経年変化

(3) 資源ごみ集団回収の実施団体数と実施回数の経年変化(図7)

平成26年度は、33団体により59回実施され、平成25年度よりも、実施団体数、実施回数ともに増加しています。

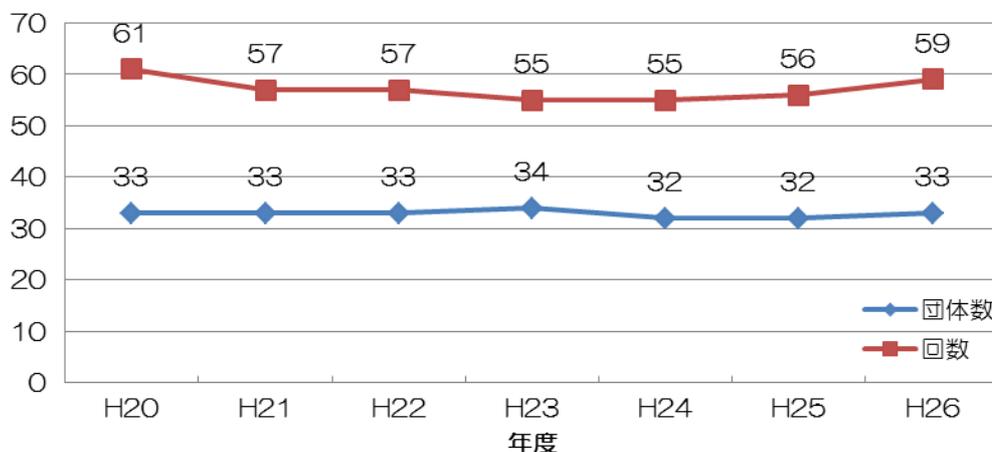


図7 集団回収の実施団体数と実施回数の経年変化

(4) ごみの資源化量の経年変化(図8)

ごみの資源化量は、平成18年度から平成26年度まで大きな変動はありません。

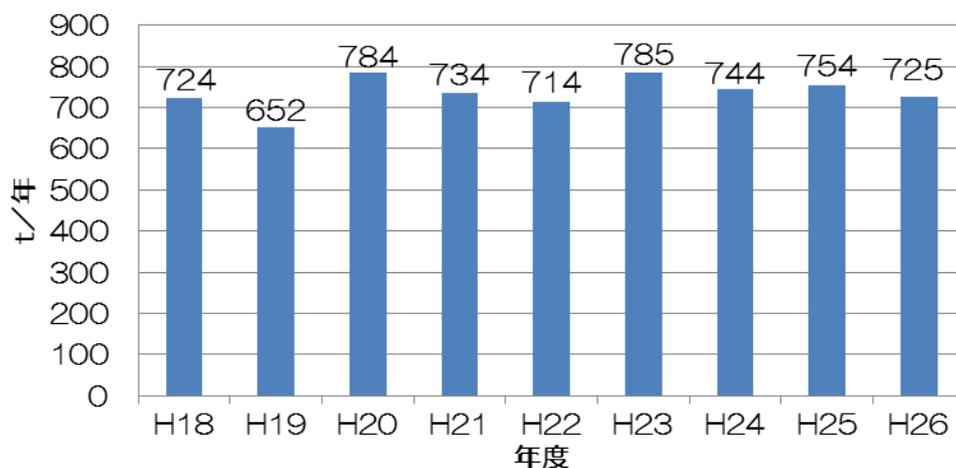


図8 ごみの資源化量の経年変化

(5) 粗大ごみ回収量の経年変化 (図9)

粗大ごみ回収は、年2回実施しており、使用済小型家電、大型金属、大型プラスチックを回収しています。使用済小型家電のうち16品目については、社、滝野、東条の各公民館に小型家電回収ボックスを設置し、随時持ち込めるようにしており、市が開催するイベント会場にもボックスを設置し、回収しています。

また、粗大ごみ回収やボックス回収等での拠点回収は、市民が、拠点までごみを直接持ち込むことで、収集運搬費が削減でき、ごみ処理経費の安さにもつながっています。

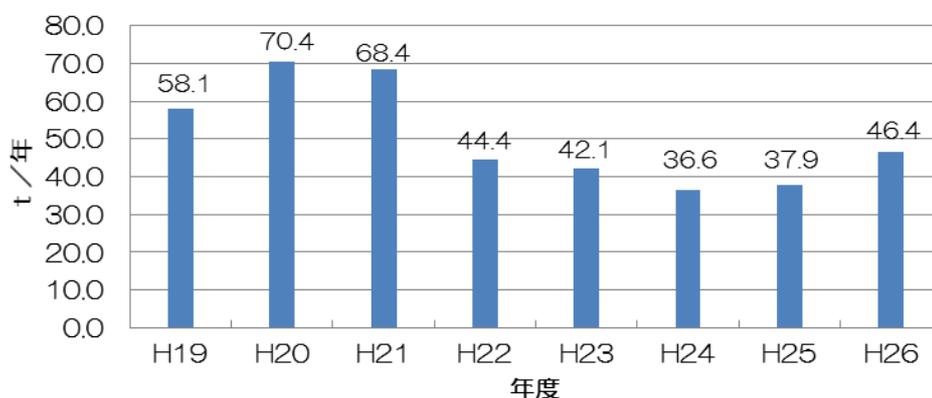


図9 粗大ごみ回収量の経年変化

(6) 資源化の取組

正しい資源分別の方法や資源ごみの拠点回収等の利用に関する情報提供を行ったり、資源ごみ集団回収運動に対する助成を行うことで、市民による資源化活動を促進し、市民の資源化に対する意識を高める取組につながっています。

具体的には、燃えるごみの約半数が紙類であるため、コピー用紙やお菓子の紙箱等は、資源ごみ集団回収を優先し、持ち出すための啓発を行い、また、小型家電のイベント回収では、保健衛生推進委員による資源化に関するチラシの配布など、資源化に対するPR活動に取り組みました。